

学位論文審査の結果の要旨

1. 申請者氏名	中原 久志
2. 審査委員	主査：兵庫教育大学・教授 森山 潤 副主査：上越教育大学・教授 山崎貞登 委員：鳴門教育大学・教授 菊地 章 委員：兵庫教育大学・教授 小山英樹 委員：兵庫教育大学・教授 岸田恵津
3. 論文題目 技術科教育におけるものづくり活動時の生徒の感情状況の分析に基づく情意的支援の在り方の検討	
4. 審査結果の要旨 教科教育実践学専攻生活・健康系教育連合講座 中原 久志 から申請のあった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。 論文審査日時：平成27年2月1日（日） 10時45分～11時30分 場所： 兵庫教育大学 神戸ハーバーランドキャンパス 講義室5 1. 学位論文の構成と概要 本研究の目的は、中学校技術・家庭科技術分野（以下、技術科）のものづくり活動における生徒の感情状況に即した情意的支援の在り方を検討することである。 本論文は、緒論と結論を含め全7章で構成され、①生徒の内観に基づく感情状況の把握、②生徒の日常生活におけるストレス反応（以下、日常ストレス反応）と授業における感情状況との関連性の検討、③感情状況の把握に基づく情意的支援の方策の検討という3つの研究課題への対処を試みている（以下、研究課題1～3）。 研究課題1に対しては第2章において、技術科のものづくり活動における生徒の感情状況について実態把握を行っている。その結果、生徒は技術科の4内容の中でも、内容A「材料と加工に関する技術」（以下、材料加工学習）のものづくり活動と結び付けてポジティブ、ネガティブな感情状況を得やすいことを明らかにするとともに、これらの感情状況を把握する計17カテゴリからなる分析フレームワークを導出している。第3章及び第4章においては研究課題2に対処するために、学習場面として材料加工学習に焦点を当て、生徒の日常ストレス反応と材料加工学習のものづくり活動における感情状況との関連性を検討している。その結果、第3章では、日常ストレス反応のうち、「不安」、「抑うつ」、「怒り・攻撃」反応の強い生徒はものづくり活	

動において「没頭・無心」を感じやすく、「ひきこもり」反応の強い生徒は「達成の期待感」を感じにくい「完成の喜び」を感じやすいことを明らかにした。また、第4章では、女子において「怒り・攻撃」反応と「失敗に対する後悔」、「絶望」反応及び「抑うつ」反応と「作業不安・困難感」など、日常ストレス反応とものづくり活動におけるネガティブ感情との関連性を明らかにしている。

研究課題3に対しては第5章において、材料加工学習のものづくり活動における生徒の感情状況と学習意欲との関連性を検討している。その結果、全体としてもものづくり活動でポジティブ感情を強く感じる生徒ほど学習意欲が高いことを示した。加えて、男子では「失敗に対する後悔」、「作業不安・困難感」など、製作プロセスの途上で生じる事態に由来するストレスがむしろ成就感や達成感への期待に基づく学習意欲を高める要因となりうることを明らかにした。第6章ではさらに、材料加工学習のものづくり活動における生徒の感情状況と授業内の学習経験との関連性について実践的に検討している。その結果、「成功経験」、「工夫経験」、「満足感経験」、「有用感経験」などがものづくり活動におけるポジティブ感情を促進する上で重要な役割を果たしていることを明らかにしている。

以上の各章で得られた知見に基づき第7章では、技術科の材料加工学習における教育実践への示唆として、①ものづくり活動に際して生徒の日常ストレス反応を適切に把握しておく必要性、②生徒の感情状況のモニタリングに即した学習意欲の喚起する手立て、③生徒の感情状況の差異に着目した情意的支援の適切な使い分け、の3点について考察し、教科指導と生徒指導を両輪とする授業実践に向けた今後の課題を展望している。

2. 審査経過

本論文は、中学校技術科のものづくり活動に焦点を当て、効果的な情意的支援の実践ストラテジーを構築するために、授業における生徒の感情状況の分析を試みたものである。本論文では、①生徒の内観に基づく感情状況の把握、②生徒の日常ストレス反応と授業における感情状況との関連性の検討、③感情状況の把握に基づく情意的支援の方策の検討という3つの研究課題を設定している。これらの研究課題に対して第2章では、ものづくり活動時の生徒の感情状況の実態把握と分析フレームワークの作成、第3～4章ではものづくり活動時の生徒の感情状況と日常ストレス反応との関連性の検討を行い、それぞれ実践研究に向けた基礎的知見を得ている。その上で、第5～6章では、材料加工学習における実践研究を展開し、ものづくり活動における生徒のポジティブ感情や学習意欲の喚起に影響する要因の検討を行っている。このように本論文は、これまで技術科教員の経験則に頼っていたものづくり活動時の情意的支援の方策を実証的な手法を用いて体系化している点に独創性が認められる。また、今後の授業研究に利用可能な分析フレームワークを構成している点や具体的な情意的支援の方策を提言している点には、教育実践における有用性と発展性があり、今後の教育実践に大きく貢献するものと期待できる。

3. 審査結果

以上により、本審査委員会は中原久志の提出した学位論文が博士（学校教育学）の学位を授与するにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。